インカレ決勝秘話

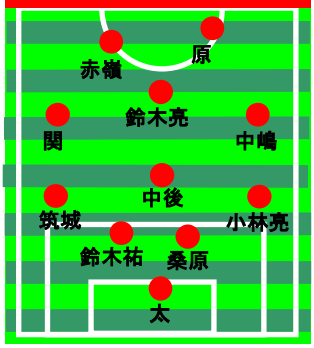
「俺、桑原、筑城でカバーすればいいと思った。紅白戦でもやれていたし（鈴木）祐輔とは最後一緒にやりたかった」と試合後語ってくれたのは小林亮。この男はこれだけの決意、覚悟をもち、実はこの決勝に挑んでいた。いや、小林亮だけではないチーム全体が祐輔と、キャプテンと一緒にサッカーを最後やりたいと思い戦った。リーグ３連覇という偉業を成し遂げられず失意のどん底にいた駒大。そのなかでもキャプテンであり２連覇を知る鈴木祐にとってはかなりの重圧だっただろう。そして悲劇はさらに鈴木祐に襲い掛かる。右足首骨折。リーグの雪辱をインカレで晴らそうとしていた矢先であった。W杯でベッカムが故障した箇所と同じ。「全治３ヵ月と診断されました。でも、ベッカムも２ヵ月ぐらいでなおした。奇跡を信じて、仲間を信じてインカレの予選は無理でも決勝にでれるように頑張ります」。インカレの会場では声をからし応援する鈴木祐がいた。ただ、足を引きずる鈴木祐だけが痛々しく見えた。そして、チームも「祐輔を決勝の舞台に」（太）と一体となっていった。「リハビリとかで頑張ってる祐輔を見ると絶対に決勝の舞台に立たせてやりたいと思った」（小林亮）。そしてチームは見事決勝に進出。そして、決勝２日前。紅白戦のあと、中後、小林亮の副キャプテンが秋田監督に呼ばれた。その内容は鈴木祐をスタメンにするかどうかという内容。監督は廣井でいったほうがいいのではと提案する。しかし、２人は鈴木をスタメンで使うことを進言した。「紅白戦でもやれていたし大丈夫だと思った。もし何かがあっても俺と桑原、筑城でカバーすればいいと思っていた。」（小林亮）。「監督は自分達の意見を尊重してくれるのでありがたい。４年間一番頑張ってきたやつ。決勝の舞台で最後一緒にプレーしたかった」（中後）。監督のなかでも勝利を優先させるか、長くやってきて一番信頼できる４年生を使うのか苦しんだことであろう。そして監督は後者を選んだ。そして二人の決意が監督の鈴木祐起用を決断させた。決勝当日、りりしい顔つきでチームの先頭に立つ鈴木の姿があった。試合は５―２の快勝。駒大は３年ぶり４度目の優勝を飾った。鈴木もお世辞にもいいプレーをしたとはいえなかったが闘志は衰えず９０分間戦いぬいた。記者会見では「インカレの感想は」という問いに選手たちからところどころに「祐輔」という言葉が随所にならべた。口ではうまく表現できなかったがそれはどれだけ選手たちがキャプテンとサッカーをしたかったのかそれが伝わってくるものだった。試合後、鈴木祐は「二か月足らずでケガ直ったのは病院の方、監督の助けがあったから。栄養にも毎日気をつけた。家族に支えられた。毎日治療に通ってリハビリ頑張った。自分一人では間違いなくここまでこれなかった」。たしかに今思えば苦しいリハビリ、３ヶ月と診断されたケガ。それを直してピッチに立てているというのが奇跡。そばに仲間がいて自分のためにと舞台を用意してくれた、だから鈴木はそれに応えるように体にムチを打ちながら苦しいリハビリをやり遂げることが出来たのかもしれない。この試合、駒大は日本一という栄冠を手に入れた。しかし、栄冠よりも大事なもの。友情と言ってしまうと安っぽく聞こえてしまうようなそんな大事な『絆』を手にした気がする。それは激戦を戦うことで得た選手たちだけが知るものなのかもしれない。

（文・内田浩嗣）

MOM　太　洋一

後半、２失点を喫するもピンチには鋭い反応でピンチをしのいだ。決勝の大舞台でも焦ることなく駒大ゴールを守りきった彼が今年度最後のＭＯＭ！！

基本フォーメーション



▲前半、赤嶺のゴールなど 10 分間で４得点と自慢の攻撃陣が爆発した

決勝戦でも柔軟なドリブルで相手を翻弄した鈴木亮

1 月 16 日　13:00　国立霞ヶ丘競技場

駒大（関東第３）5（2－0 / 0－0）2 立命大（関西第４）

得点者(アシスト)

［駒］26 分：中嶋祐太 3(赤嶺真吾 3)
［駒］29 分：鈴木亮平 3(関　光博 1)
［駒］33 分：赤嶺真吾 4(小林　亮 1)
［駒］36 分：小林　亮 1
［立］46 分：石田英之 8
［駒］88 分：原　一樹 6(中後雅喜 2)
［立］89 分：若菜陽介 2

KOMAZAWA	RITSUMEIKAN
GK㉑太　洋一(4)	GK①大塚　祐(4)
DF④小林　亮(4)	DF㉒西村健至(3)
DF⑤鈴木祐輔(4)	DF⑲水谷　敦(4)
DF②桑原　靖(3)	DF③阪田章裕(2)
DF⑬筑城和人(2)	DF②李　成浩(3)
MF⑥中後雅喜(4)	MF⑧西　望実(3)
MF⑧中嶋祐太(4)	MF㉟高橋健史(2)
(89 分⑭大瀬良直人(4))	(54 分⑳西本直人(4))
MF⑩関　光博(4)	MF㊵山崎佑輔(3)
(83 分㉚宮崎大志郎(3))	MF⑭関　雅至(4)
MF⑦鈴木亮平(3)	FW⑪石田英之(4)
(78 分③大澤陽介(4))	(68 分⑬若菜陽介(4))
FW⑨赤嶺真吾(3)	FW㉙藤田義史(3)
FW⑪原　一樹(2)	(89 分⑯永井宏幸(3))
S　U　B	S　U　B
GK①牧野利昭(3)	GK㉛修行智仁(2)
DF⑮廣井友信(2)	DF㊲深水章生(1)
DF⑲塚本泰史(1)	MF㊳前田和之(1)
FW㉛巻　佑樹(1)	MF㊸朴　世訓(1)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 米田　隆

警告(C)／退場(S)

【駒】６分：中嶋祐太(C)

［シュート］6：12［GK］11：7［CK］6：5［PK］0：1［直接 FK］8：19
［間接 FK］3：7［OS］2：6［主審］松尾　一［観衆］約 6800 人

※上記データは全て左側の数字が駒澤

シュート６本で５得点。圧倒的な決定力でファイナルを制した駒大。大会を通して総失点「３」の守備陣の奮闘も光った。
（撮影・野澤俊介）